

【市長賞】みんなで食べる給食

明和小学校 食べる給食

杉浦
彩巴

話しながら食べられるようになつたのです。

「今日のデザート、ゼリーだ！」

と、笑い声があふれます。みんなで食べる給食がもどつてきたと感じました。

私は、みんなで給食を食べることがとても好きです。しかし、小学校生活の始まりは少し変わっていました。

ました。二〇二〇年四月、私は小学校に入学しました。ピカピカのランドセルを背負って、どんな友だちがでてくるかなとわくわくしていました。ところが入学してすぐに、新型コロナウイルスの感染が広がり、学校は休校になってしましました。まだ友だちもほとんどできていたかったので、とても残念でした。しばらくして、分散登校が始まりました。クラスを半分に分けて登校するため、会えるのは一部の子だけでした。もう半分の子とは会えないので、同じクラスなのに知らない子のような気がしました。やがて、やつと全員がそろつて学校に行けるようになりました。とてもうれしかったのですが、給食の時間は思つていたよりも静かでした。机は動かさず、全員が黒板の方を向いて食べました。先生から

友だちと食べる給食は、ただお腹を満たすだけではありません。話しながら食べると、同じ料理がもつとおいしく感じます。自分の好きなメニューの時だけじやなく、少し苦手なものも、友だちと一緒にだと食べられてしまします。私は、給食はクラスの仲を深める大切な時間だと思いました。

コロナ禍の経験を通して、当たり前だと思つていたことが、実はとてもありがたいことだと知りました。みんなで同じテーブルを囲み、同じものを食べて笑い合えることは、とても幸せな時間です。これからも、給食の時間を大切にしていきたいです。そして、もしもまた何かの理由で静かな給食になつたとしても、きっと楽しい時間がもどつてくると信じています。今、こうして友だちと笑いながら食べられることに感謝しながら、残りの小学校生活を過ごしたいです。

「給食中はしゃべらないように。」

と言われ、友だちと話すこともできませんでした。
しばらく静かな給食が続き、スプーンの音だけが聞
こえました。おいしい給食なのに、少しさみしいふ
んい気でした。でも、それはみんなが安全に過ごす
ために必要なことだと分かっていたので、がまんし
ました。

そして今では給食の時間はすっかり明るくなり
ました。机を向かい合わせにして、近くの友だちと

そして今では給食の時間はすっかり明るくなりました。机に向かい合わせにして、近くの友だちと